

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！

建築の本質を体感する実技課題 「カレッジ フレーム」とは

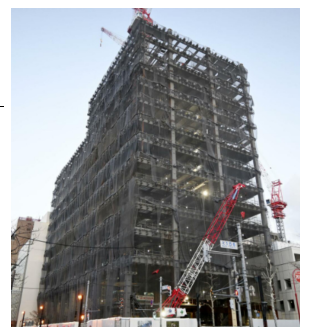


部分の精度が出来栄え左右
できば

4月の「集中授業」から始まった道具づくり、図面理解、墨付け、基本的な継手・仕口の加工の総復習課題が「カレッジ フレーム」です。最終回の授業日（6月21日）に18人全員が完成させました。数人は放課後も使って作り上げました。

この課題では、建築で何が一番大切か、学びました。与えられた図面を正確に理解し、精度の高い墨付けと加工が行われ

1年生の 授業から



精度不良が発覚し解体することになったビル

ること。最高の状態の道具を使うこと。スピードと共に、美しさにも気を配ること。そして期日に間に合わせるなどです。

「サシガネと墨差しの使い方方を今一度訓練して精度を上げたい。組み上げた喜びはひとしおだった。満足できていない」

「組むことはできた。出

来が悪くて嫌になる。課題がたくさん見つかったので改善していく。特に鎌継手が緩くなり寸法も合わなかった。墨付け時点から正確に作業したい」（当日の「日報」から）



全国建設労働組合総連合（全建総連）が主催する、「第53回全国職業訓練生及び講師・実務担当者交流集会」（6月12日・13日、群馬県安中市・磯部温泉）のミニ弁論大会で本校2年生（第29期生）の田邊琢磨さんが最優秀賞を受賞しました。発言内容の一部を紹介します。

第29期 田邊琢磨さんが最優秀賞 「職訓生等交流集会」ミニ弁論大会

「（東京建築カレッジの）座学では昔の古民家を学ぶ上で、快適な暮らしを最小限の資源で創るという夢ができました。現代の建築は資源を多く使い、早いうちに捨ててしまっています。その捨てた物の中には、土に還らずに残っている物が多いです。SDGsという国連の目標を知って、私は地球に優しい資源で、快適に暮らせるという考え方で、自分自身が納得できる家を作りたいと思いました。／これを実現させるために、今の会社で学びながら、昔の建物と真剣に向き合い、現代の建物の削減できる所や、もっと良くできる所を見つけていきます。そして、学んだことを更に仲間や後輩に伝えていき、共感できる仲間を増やして、共に楽しく働いていきたいと思っています」

ともあれ、第30期生は秋冬の実習棟実習に向けて、たくさんのお気づきを頂きました。反省点の自覚を含めて一歩成長しています。

建設が公表した札幌市の事件です（右写真＝共同通信）。

2023年3月に大成

これらは建築のすべてに通底する気つきでしょう。部分の精度の大切さについては、建築中の高層複合ビルを鉄骨の精度不良が発覚で解体して建て直すことになった事件を思い出します。

規矩準縄勾

本校の校舎は池袋校舎と江東実習場。しかし江東実習場の1階「実習場」にエアコン設備はありません。

このため一部の授業を除き、7・8月は池袋校舎を使うようにしています。▼野外や室内でも高温な環境で作業せざるをえない建設業にとって過酷な日々が続いています。今年6月から職場における熱中症対策が罰則付きで義務化されましたが、「暑さ指数WBGT値を気にしていたら仕事は進まない」という本音も。とはいえ、倒れる人が出ているので、ほとんどの工務店では対策を強めています▼しかし小規模工務店が多い業界です。対策には限界があります。フランスでは7月1日から猛暑日の働き方で新たな政令が出されました。建設業の「気象による休業」には政府補償で手当を出すそうです。日本でも、猛暑の中で働く人を守る公的な対策や制度が必要で

2年生の 授業から

各専門工事職実習で 建築板金を体験(7月5日)

雨漏りの原因、対策の豆知識も伝授



各専門工事職体験授業は本校母体の東京土建の組合員さんの協力で実施（江東実習場）

5月の「型枠・鉄筋」から始まった各専門工事職体験授業は7月5日の「板金」が最終回。松本建築板金(株)（武蔵野市）の松本守史社長が講師を務め、丸一日かけて授業をおこないました。

松本社長は「建築板金一級技能士」「職業訓練指導員」であり、後進の育成に熱心です。約一時間かけて、材料、屋根葺きの種類、道具を解説した後、実技実習に移りました。

瓦葺き、巻鉤（まきはぜ）葺き、



一方、1年次の間取りの創造から始まった住宅自由設計は各自のプランを50分の1サイズの意匠模型に表現する段階へ。大工など施工系の職種であっても設計の仕事を経験させることが狙いです。「設計も自分でできる大工になる！」という研修生は少なくありません。人気の授業です。完成した模型で設計プランの意図を説明させます。

住宅自由設計 意匠模型づくり

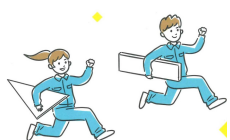
横葺きの作業を実地で体験できるのは貴重です。授業の最後には雨どいの施工時の注意点を解説もありました。

1年生の 授業から

コンクリートを
つくって見た！

「建築材料実験」は工科高校の建築科の多くで受ける授業。カレッジでも基礎学習として重視しています。様々な材料の物性を学習した後に、圧縮、引っ張り実験で確かめます。コンクリートは調査設計から学び、自分たちで製作します。実験で得た結果の正確な記録、定型的な科学レポートを完成させる日まで提出すること求めます。

コンクリートを作るために必要な材料（セメント・砂・砂利・水）以外のものを入れると、強度はどのように変化するか、木の強度は継手



の形や加工の精度で違いは出るか、などゲーム感覚で楽しみながら物性を確かめます。

◇ ◇

6月28日の「建築情報管理」はパソコン(PC)入門講座。ワードの使い方からやさしく教えました。施工管理職で普段からPCを使う人から「初めて知る機能があった」の声が出ていました。秋以降、CAD（コンピュータ支援設計）の授業を開始します。

6月28日の授業から
(池袋校舎地下)



8月24日(日)池袋校舎で大工実技実習体験付き



6月15日のオープンキャンパス参加の高校生たち

カレッジは、どんな学校か、何を学ぶのか、お伝えします。大工実技実習の授業の一部も体験できます（定員10人）。希望者にはカレッジ職業紹介所が就職先の紹介も行います。新入社員教育にカレッジを利用（学費の全額を会社負担）する工務店や建設会社に就職するチャンスが得られます。

お申し込みはお早めに。右のQRコードから登録フォームへ。

第2回オープンキャンパス 参加者募集中

第31期生
(来年4月入学生)
入学応募対象者をご紹介ください。

「建築カレッジからはじめよう！」が合言葉

